

# まほろばだより

2024  
March  
vol.48

第48号



## Contents

- Report 1 第13回女性研究者学術研究奨励賞受賞者決定
- Report 2 近畿地区近隣医科大学共同フォーラム参画
- Report 3 研究支援員配置制度について
- Report 4 教職員の保育環境について

Report  
1

## 第13回女性研究者学術研究奨励賞の受賞者が決定しました

本学では、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等を目的に「女性研究者学術研究奨励賞」を設置しています。第13回となる今回は、基礎医学・教養教育部門から1名、臨床医学部門から4名、合計5名の応募がありました。

3月8日に開催された選考委員会（委員長：細井学長）で慎重に審議した結果、第13回女性研究者学術研究奨励賞は解剖学第一講座の堀井謹子先生が受賞の栄冠に輝きました。おめでとうございます。授賞式および受賞者による記念講演は、中島佐一学術研究奨励賞授賞式と共催予定です。推薦者の井上浩一教授並びに解剖学第一講座教職員の皆さまにもお祝い申し上げます。

今回応募された5名の研究者の内4名は、これまで本賞に複数回応募し、受賞の選に漏れた後もコツコツと業績を積み重ねてこられました。臨床業務や教育に携わりながら粘り強く研究を続ける女性研究者の方々に、深く敬意を表します。ご応募いただいた皆さまの今後益々のご活躍を期待しています。本賞の応募には回数や年齢の制限はありませんので、これからも様々な年代、経歴を持つ女性研究者にご応募いただけますことをセンター一同楽しみにしています。

【受賞者】 解剖学第一講座 講師 堀井 謹子 氏

【研究テーマ】 起こるかもしれない脅威から身を守る神経回路：  
強迫性障害との関連



Report  
2

## 近畿地区近隣医科大学共同フォーラムに参画しました

1月24日、京都府立医科大学WLB支援センターみやこ、関西医科大学オール女性医師キャリアセンターが共催する近畿地区近隣医科大学共同フォーラムに参画しました。本学以外にも大阪医科薬科大学、兵庫医科大学が参加し、全5校の担当者が各大学の女性医師活躍推進を担う組織及びその活動内容について、Web会議で情報共有を行いました。参加5大学とも大学で働く女性医師を増やすために有効な支援策を模索しており、本学の女性医師に対する研究支援に大きな関心が寄せられました。今後も近隣医科大学との交流を深め、女性医師支援の在り方について検討していきたいと思っております。





当センターでは、妊娠・出産、育児、不妊治療、介護等のライフイベントにより、研究時間が十分に確保できない女性研究者・医師に対し、研究支援員を配置しています。令和6年度上半期は、病院助教1名、診療助教1名、臨床医学部門教員5名、基礎医学部門教員1名の合計8名が研究支援員配置制度を利用予定です。

平成23年度より文部科学省女性研究者研究活動支援事業の一環として開始した本制度は、平成26年度以降は大学の自主財源で支援対象を拡大しながら運用を継続しています(表1)。

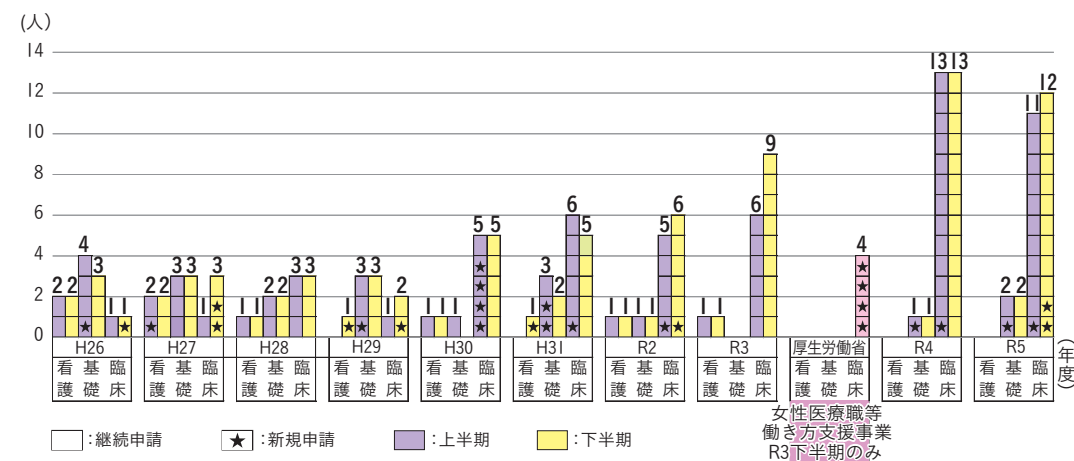
表1 研究支援員配置制度の変遷

改正年月	改正内容等
H23年度 開始当初	<b>文部科学省女性研究者研究活動支援事業(H23-H25)の一環として開始</b> 妊娠・出産、育児、看護・介護により研究活動の継続が困難な常勤の女性教員(教授、准教授、講師、助教)を対象に、研究支援員を週38.75時間を上限に配置
H25年度	・育児を理由とする場合の子の年齢拡大 小学校3年生まで → 小学校6年生までに拡大
H26年度	<b>大学の自主財源でセンター事業運用開始</b> ・常勤の女性診療助教(専門医取得後の医員)、研究助教に支援対象拡大 ・支援時間の上限を原則週20時間に短縮
H30年度	・支援対象となるライフイベントに不妊治療を追加 ・支援員配置期間の上限を原則のべ5年に設定
H31年度	<b>「女性研究者支援センター」から「女性研究者・医師支援センター」に名称変更</b>
R3年度	<b>厚生労働省女性医療職等の働き方支援事業(R3)採択</b> ・常勤の病院助教(医師免許取得11年目以降の医員)に支援対象拡大

研究支援員配置制度の利用を申請する研究者の数は年々増加し、近年は臨床部門の研究者である女性医師の利用が大多数を占めるようになりました(図1)。本制度の実利用者は令和5年12月までに26名となり、これら26名のうち定年退職1名、県内医療機関への転出1名、他大学への転出2名を除く22名が本学で就労を継続しています(表2)。また、支援員配置申請後に9名の女性研究者・医師が助教に採用され、8名が講師等に昇進しています。そして、23名が配置申請後に科研費を研究代表者として獲得しています。令和5年度は、在籍者22名のうち17名(77.3%)が科研費(研究代表者)を獲得する等、令和5年度本学教員の競争的資金獲得割合53.5%を大きく上回っています。

本制度は、利用者個人の就労継続や昇進、研究力向上に寄与すると同時に、本学が女性のライフイベントと研究の両立を支援し、女性研究者・医師の活躍を積極的に進めていることを示す制度にもなっています。制度開始後に医学科教員の女性割合が増加する等、大学全体への波及効果も大きいと思われます(図2)。

図1 研究支援員配置申請人数の推移



しかしながら、医学科女性教員の割合は、令和6年度の目標値20%を目前に伸び悩んでいます。特に、教授・准教授に就く女性が少なく、講師以上の上位職の割合も10%台前半と低迷している状況です。研究力が向上してきた女性が、今後10年間で上位職に就任するためにはどのような支援策が必要であるのかについて、大学全体で検討していきたいと思っています。

図2 医学科学生・教員・上位職教員の女性割合

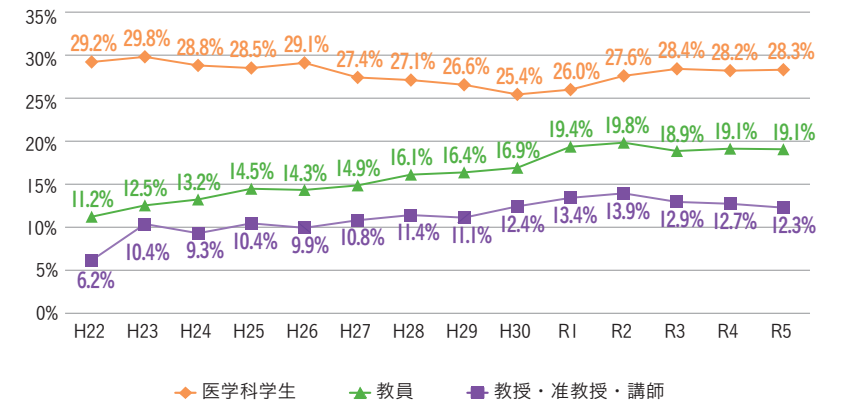


表2 研究支援員配置制度を利用した女性研究者・医師26名のキャリア形成

部門	No.	所属	制度利用	職位		科研費獲得状況			配置後の状況
				配置申請後	配置申請時	配置申請後	2023年度		
基礎医学教育部門	1	細菌学免疫学	終了	助教		○	基盤研究(C)4回	○	
	2	生物学	終了	講師		○	基盤研究(C)2回	○	
	3	解剖学第二	終了	助教		○	基盤研究(C)	退職者	第2子出産後、復職退職(R3.3) 他大学転出
	4	解剖学第一	継続中	助教	講師昇任		若手研究(B)2回 基盤研究(C)2回	○	第13回女性研究者学術研究奨励賞受賞
	5	分子病理学	継続中	助教	講師昇任	○	若手研究		第1子出産後、復職博士学位取得(R4.3)
臨床医学教育部門	6	呼吸器内科学	終了	助教	講師昇任		基盤研究(C)2回	○	H26.4～女性研究者・医師支援センターマネージャー
	7	呼吸器内科学	終了	診療助教	助教採用		若手研究(B) 基盤研究(C)	退職者	第2子出産後、復職本学退職し県内医療機関に転出(R元.9)
	8	皮膚科学	終了	助教					第2子出産後、復職
	9	放射線診断・IVR学	終了	診療助教	助教採用	○	若手研究、基盤研究(C)	○	
	10	循環器内科学	終了	診療助教					第3子出産後、育児休業中
	11	病理診断学	継続中	診療助教	助教採用 講師昇任		若手研究2回	○	第2子出産後、復職博士学位取得(R2.3) 第9回女性研究者学術研究奨励賞受賞
	12	総合画像診断センター	継続中	診療助教	助教採用				第2子出産後、復職
	13	小児科学	継続中	診療助教	助教採用		若手研究2回	○	第2子出産後、復職博士学位取得(R3.3)
	14	消化器・総合外科学	継続中	診療助教	助教採用		若手研究	○	博士学位取得(R3.3)
	15	脳神経内科学	継続中	准教授			基盤研究(C)	○	
	16	皮膚科学	継続中	助教		○	若手研究2回	○	第10回女性研究者学術研究奨励賞受賞
17	循環器内科学	継続中	助教			若手研究	○		
18	小児科学	継続中	助教		○	若手研究		第11回女性研究者学術研究奨励賞受賞	
19	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	継続中	診療助教	助教採用	○	基盤研究(C)	○		
20	糖尿病・内分泌内科学	継続中	病院助教	助教採用	○	基盤研究(C)	○		
21	産婦人科学	継続中	診療助教	助教採用		若手研究	○	博士学位取得(R4.3)	
看護学	22	母性看護学	終了	准教授	教授発令		基盤研究(C)2回	○	
	23	母性看護学	終了	准教授	教育教授称号付与	○	基盤研究(C)	退職者	定年退職(H30.3)
	24	公衆衛生看護学	終了	助教	講師昇任		挑戦の萌芽研究	退職者	退職(R2.12) 他大学転出
	25	在宅看護学	終了	助教	講師昇任		基盤研究(C)2回	○	
	26	母性看護学	終了	講師		○	若手研究、基盤研究(C)	○	第1子出産後、復職



# 教職員の保育環境について



本学には、令和5年5月現在で3,168人(男性1,177人、女性1,991人)の職員が勤務しています(図1)。これら教職員の子育て支援の一環として、0歳児から5歳児まで各年齢の定員25人、総定員150人の学内保育園(なかよし保育園)が整備されています。生後57日から就学前までの乳幼児を入園対象とし、開園時間は平日7時から20時、保護者が勤務の場合には土曜日保育や金曜日の夜間保育も実施しています。令和5年4月1日時点の在籍園児は104人(図2)でした。なお、年度途中で復職や入職する教職員の保育ニーズにも対応するため、4月1日以降も随時入園を受け付けています。結果、令和6年1月1日時点の在籍園児は117人に増加しています。

(なかよし保育園 HP <https://www.narmed-u.ac.jp/university/kanrenshisetsu/nakayoshihoikuen/index.html>)

なかよし保育園に通う園児の保護者の職種は多岐にわたっており、学生も利用可能です(図2)。本学には、女性研究者・医師を中心に産後1年未満で復職を希望する職員が一定数おります。職場に近いなかよし保育園での0歳児保育の充実は、これら教職員の復職に大きな役割を果たしています。

病児・病後児保育に関しては、平成27年1月から民間医療機関(医療法人吉川医院)と連携し生後6か月から小学6年生を対象に実施しています(図3・図4)。病児・病後児保育の詳細や利用を希望される方は、総務広報課にお問い合わせください(内線2226)。

図1 公立大学法人奈良県立医科大学職員(R5.5.1現在)

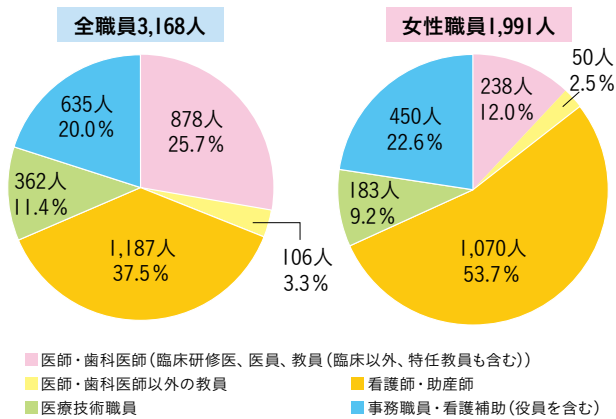


図2 なかよし保育園に在籍する全園児の保護者の職種内訳

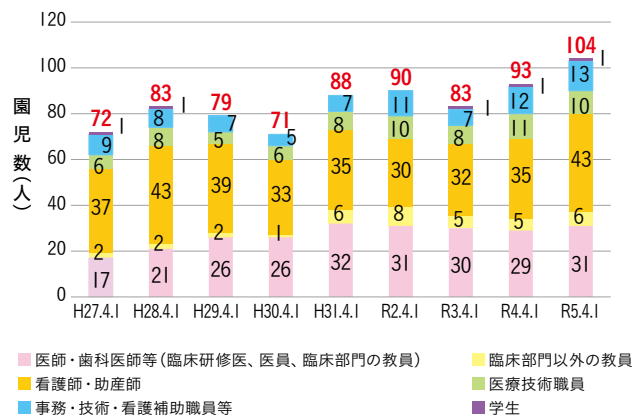


図3 本学連携医療機関での病児・病後児保育の利用職員数

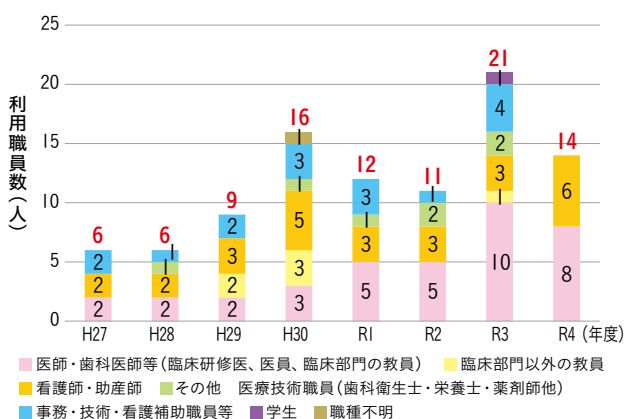
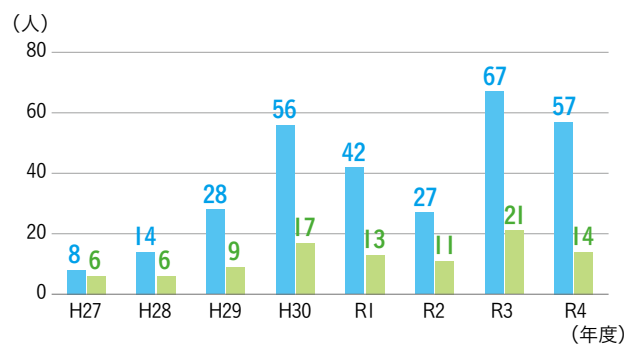


図4 本学連携医療機関で病児・病後児保育を利用した児童数



## 【編集後記】

本年3月末に5名の女性教員が研究支援員配置制度の利用を終えます。5名とも子育てをしながら臨床、教育、研究に励み、学位取得や昇進、科研費獲得等の成果を挙げられました。彼女達の奮闘はセンターの大きな励みとなり、後輩や学生の立派なロールモデルとなっています。教員5名の支援業務が終了するのは寂しいですが、4月からは新たな病院助教への支援が始まります。制度利用者が家庭と仕事を両立し、研究業績を積み重ねられるように今後もサポートしていきたいと思ひます。  
マネージャー 須崎康恵

## 【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」  
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階  
TEL: 0744-23-8011(直通)  
0744-22-3051(代) 内線: 2525  
E-mail: jshien@narmed-u.ac.jp

